

スクールソーシャルワーカーの活用実態

—文部科学省活用事業実践活動報告集の分析から—

○ 日本社会事業大学 氏名 内田 宏明 (会員番号 4962)

スクールソーシャルワーカー、実践活動事例集、事例分析

1. 研究目的

2008年度から事業化された文部科学省のスクールソーシャルワーカー活用事業も今年度で14年度目となった。この間、第1次子どもの貧困対策大綱の指標ともなり、1中学校区当たりの1人で計1万人の配置目標が設定され、2018年度をもって達成されたということになっている。この14年間で急拡大し、職種として定着したかに見える。

しかし、第2次子どもの貧困対策大綱では配置目標が設定されずに、代わって対応実績のある小中学校率の引き上げが目標とされた。即ち、2017年度実践の小学校50.9%中学校58.9%からの引き上げである。つまりは、半分ほどの小中学校しか支援的関わりを果たしていないことが、課題として掲げられたということである。また、一方で2020年度には総務省から小中学校における教職員のスクールソーシャルワーカー認知が高まっていないことを問題とする勧告を文部科学省は受けた。その対応としては、学校現場への活用事例の告知が求められた。

さて、文部科学省は毎年スクールソーシャルワーカー活用事業実践活動報告集をホームページ上に公開している。ここには、全都道府県及び政令市、この事業の補助金を活用している中核市の事例が掲げられている。膨大な資料ではあるが、各自治体の事例が並列的に列記されているだけなので、全体的な傾向を俯瞰することはできない。

本研究は、令和元年度文部科学省スクールソーシャルワーカー活用事業実践事例集のデータの全体的に俯瞰するために分析を試みうることを目的とする。項目の中でも、今回の研究においては、「スクールソーシャルワーカーの資質向上に向けた研修体制について」項目のうち「(4) 特に効果があった研修内容」＝(A)と、「成果と今後の課題等」項目の「(1) SSW活用事業の成果」＝(B)及び「(2) 課題と課題解決に向けた取組②今後の課題、課題の原因、その解決に向け実施した取組」＝(C)のみを分析対象とし、研修の在り方と課題の所在、解決方法の全体的把握をすることとした。

2. 研究の視点および方法

この活用事例集は質的データとなっているため、分析方法はM-GTAにおけるコーディング法を援用した。このうち、(A)については、研修の具体的な内容やテーマに分けてコーディングを行い、研修の枠組みについては最初から焦点化コードを振った。そして、焦点化コーディング及び焦点コードに分類したオープンコードの単純集計を行い、その割合を示した。ただし、研修の枠組みについては最初から焦点化コードを振ったため、オープンコードの割合は示していない。

3. 倫理的配慮

扱ったデータはすべて、文部科学省のホームページ上に公開されており、誰でもがアクセス可能なものである。

4. 研究結果

(A) ①特に効果のあった研修・研修の枠組み

- ・事例検討が圧倒的高評価。
- ・続いて、スーパーバイズ、学校関係者との合同研修の評価が高い。

後述に挙げられる「研修やスーパーバイズの機会が少ない」や「学校関係者との連携が不十分」といった課題に紐づけられる結果。

②特に効果のあった研修・研修の具体的な内容やテーマ

・焦点化コード「対応する課題について」「連携・支援体制の構築について」「支援技術について」の間に大きな差はない。

なお、「対応する課題について」内のオープンコードとしては「虐待」が最多、続いて「不登校」となっており、家庭内の課題への対応の重要性が着目されている。

・焦点化コード「連携・支援体制の構築について」内のオープンコードは「関係機関との連携」が最多となっている。

(B) ③スクールソーシャルワーカー活用事業の成果

- ・焦点化コード「SSWのニーズの高まり」「高い専門性の発揮」が大きな割合を占めた。
- ・また、焦点化コード「SSWのニーズの高まり」内のオープンコードは「SSWの相談/対応件数の増加」が最多、焦点化コード「高い専門性の発揮」内のオープンコードは「関係機関と連携した支援の実施」が最多だった。SSWのニーズの高まりを受け、SSWによる関係機関と連携した支援が学校や自治体から評価されていることがうかがえる。

(C) ④課題解決に向けた取り組み

- ・焦点化コード「配置拡大や周知に向けての働きかけ」「資質向上・人材育成の機会の創出」が大きな割合を占めた。
- ・焦点化コード「配置拡大や周知に向けての働きかけ」の具体的な取り組みを示すオープンコードは、「SSWの配置拡大・増員」「SSWの活用事例等の周知」「配置状況の見直し」が多い。
- ・焦点化コード「資質向上・人材育成の機会の創出」の具体的な取り組みを示すオープンコードは、「研修内容の充実を図る」「スーパーバイズや研修の機会を増やす」が多い。

5. 考察

公開されている事例は羅列的、分散的な示され方をしており、全体を俯瞰し、全体としての状況を把握できる情報とはなっていなかったが、質的データ分析をすることによりその内容を一覧することが可能となった。今後、他の項目にも分析を広げたい。